

# 基礎分野

授業科目	人間発達論	講師名	高尾 浩子	所属	
開講時期	1年次 前期	単位数	1単位	時間数	30時間
<p><b>【学習目的】</b>  人間の生涯発達を理解することを目的とし、発達に関する諸理論の理解をもとに、人間の生涯を身体・心理・社会的側面からとらえ、看護のための人間理解を深める。</p> <p><b>【学習目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発達の定義及び、人間発達の諸理論、発達に影響する要因について理解する。</li> <li>・ 人間のライフサイクルにおける各時期の発達の特徴を理解する。</li> <li>・ 各時期の身体、こころの発達の特徴と、形態的・機能的側面の発達、心理・社会的発達、生活背景について理解する。</li> <li>・ 各時期における発達に関わる健康上の問題の概要を理解する。</li> <li>・ 各時期の支援について</li> </ul> <p><b>【学習内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間発達学(論)の概説 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 発達の定義</li> <li>2) 人間の発達における一般的原則と、発達に影響を及ぼす要因</li> </ol> </li> <li>2. 人間発達の諸理論 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 発達理論の歴史的展開</li> <li>2) 現代の発達理論</li> </ol> </li> <li>3. 人間のライフサイクルと発達 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 各時期における心と身体の特徴</li> <li>2) 形態的・機能的側面の発達</li> <li>3) 心理・社会的側面の発達</li> <li>4) 発達に関わる健康上の問題</li> <li>5) 発達に必要な支援</li> </ol> </li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 看護のための人間発達学 第4版 医学書院</li> <li>・ その他、随時資料を配布する。</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b>  学科試験：筆記試験ほか</p>					
備考					

授業科目	倫理学	講師名	清水 真裕	所属	
開講時期	1年次 後期	単位数	1単位	時間数	30時間

### 【学習の目的と主題】

現代社会に生きる私たちは、人間の生命に関わる多くの課題を抱えています。特に医療現場で働く看護師は、日々の業務の中で様々な倫理的問題に直面します。本授業では、そうした問題に対する理解を深め、一人一人が考え、判断し、行動するための生命倫理学の基本的知識を学びます。

### 【学習内容】（一部変更することがある）

1. 「倫理」・「倫理学」とは
2. 「生命倫理学」の誕生
3. インフォームド・コンセント
4. 安楽死・尊厳死
5. 人生の最終段階における医療
6. 臓器移植と脳死
7. 生殖補助医療
8. 出生前診断・着床前診断
9. 人工妊娠中絶
10. 再生医療
11. 日本文化と生命倫理

### 【使用テキスト】

プリントを配布する

主な参考文献：

小林亜津子『看護のための生命倫理』ナカニシヤ出版 2010年

小林亜津子『はじめて学ぶ生命倫理－「いのち」はだれが決めるのか－』筑摩書房 2011年

### 【評価方法】

学科試験：筆記試験

授業中に数回のミニレポート。

授業科目	社会学	講師名	石田幸生	所属	
開講時期	1年次前期	単位数	1単位	時間数	30時間
<p><b>【学習の目的と主題】</b>  本講義では、社会学における先端的な方法論の習得を通じ、社会を構成する単位としての個人、家族、組織に関する理解が深まることを目的とする。個人の行為、個人間のつながりや相互行為、集団間のリンクに焦点を当て、テキストの趣旨に沿って講義を進める。ただし、学習はいわゆる「机上」の理論を身につけることにとどまるものではない。受講生が日常生活で直面する諸状況や人間関係から社会全体で起きていることまで、様々な事象を理解する上で役立つ。事例を通じ、身近なところから社会的な思考を身に付けられるようにする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 社会のメカニズム、個人の欲求、機会、選択的誘因</li> <li>3. 個人と選択、つながり</li> <li>4. 合理性が破綻するとき</li> <li>5. 短期と長期の思考</li> <li>6. 利己と利他</li> <li>7. 感情</li> <li>8. 淘汰、強化</li> <li>9. 意図せざる結果</li> <li>10. 均衡と交際</li> <li>11. 社会規範</li> <li>12. 集合行為（社会的ジレンマと協力）</li> <li>13. 交渉</li> <li>14. 社会制度、社会変動</li> <li>15. 試験</li> </ol> <p><b>【テキスト】</b>  教科書：「社会科学の道具箱」J・エルスター著、ハーベスト社  参考書：N・A・クリスタキス、J・H・ファウラー（著）『つながり』講談社</p> <p><b>【評価方法】</b>  学科試験：授業態度、レポート、試験によって評価する</p>					
備考					

授業科目	心理学	講師名	石川 智	所属	医学部
開講時期	1年次 前期	単位数	1単位	時間数	30時間
<p><b>【学習の目的】</b>  人の心についての学問である心理学の基本的な知識を全般的に学ぶ。</p> <p><b>【学習内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 総論</li> <li>2 知覚・認知</li> <li>3 欲求・感情</li> <li>4 学習・思考・記憶</li> <li>5 発達・教育</li> <li>6 性格・異常心理</li> <li>7 対人・社会心理</li> <li>8 臨床心理・心理療法</li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b>  齊藤 勇（編）： 図説 心理学入門. 第2版. 東京. 誠信書房. 2005.</p> <p>参考図書：無藤 隆（編） よくわかる心理学（やわらかアカデイズム）  京都、ミネルヴァ書房. 2009</p> <p><b>【評価方法】</b>  学科試験： 筆記試験・レポート他</p>					

授業科目	人間関係論	講師名	櫻井 未央	所属	保健学部
開講時期	1年次 後期	単位数	1単位	時間数	30時間

**【学習目的】**

心理学の立場から、人間関係の見方、形成の仕方、円滑なコミュニケーションをとるための工夫について、受講者が自らを省みながら理解することを目的とする。

**【学習内容】**

- 第1回 人間関係について考える —イントロダクション
- 第2回 コミュニケーションのありかた①
- 第3回 コミュニケーションのありかた②
- 第4回 関係を支えるコミュニケーション
- 第5回 関係を支えるコミュニケーション—傾聴・共感の体験
- 第6回 小テスト / カウンセリングの理論①
- 第7回 カウンセリングの理論②
- 第8回 「わたし」をとりまく関係の理解（自己理解と他者理解）
- 第9回 集団のなかでの行動
- 第10回 小テスト / 家族のなかの関係をとらえる
- 第11回 家族を理解する方法
- 第12回 病にある人を理解する
- 第13回 「援助する—援助される」関係を考える
- 第14回 まとめ
- 第15回 試験

**【使用テキスト】**

プリントを中心に講義を行う。

参考文献として、系統看護学基礎分野 人間関係論（医学書院）を踏まえた形で講義を行う。

**【評価】**

筆記試験（50%）授業内での小テスト（40%）各授業後レスポンスペーパーの提出（10%）

授業科目	生物学	講師名	粟崎 加藤	平井	所属	医学部
開講時期	1年次 前期	単位数	1単位	時間数	30時間	

### 【学習の目的と主題】

生命の基本単位である細胞に共通の基本構造と機能を学ぶ。これら細胞の発生、遺伝のしくみの学習を通じて、生体においておこる生命現象を個体レベル、細胞レベルおよび分子レベルとさまざまな角度から観察、理解し医療現場に生かすための基礎をつくる。

### 【学習内容】

#### I. 生物学の基礎・細胞の構造と機能・遺伝とDNA

- 1) 生物の分類、生物の誕生
- 2) 細胞の構造、植物細胞、細胞骨格と細胞の運動
- 3) 遺伝現象、ゲノムと染色体、DNAの複製

#### II. 遺伝情報の発現・細胞の増殖と死

- 1) 転写とRNA、転写調節、タンパク質合成
- 2) 細胞周期、体細胞分裂、減数分裂
- 3) 細胞の死、アポトーシス

#### III. 生殖、発生、分化・癌と老化・バイオテクノロジーと医療

- 1) 生物の増殖様式、動物の発生、分化・再生
- 2) 癌と老化
- 3) 遺伝子組換えとその応用・医療におけるバイオテクノロジー

### 【使用テキスト】

医療・看護系のため生物学 田村隆明 裳華房  
 生物図録 鈴木孝仁 数研出版

(参考書)

エッセンシャル細胞生物学 (中村 桂子 監訳 南江堂)、

### 【評価方法】

学科試験：筆記試験及び出席により評価する

授業科目	論理学	講師名	中嶋めぐみ		所属	
開講時期	1年次 前期	単位数	1単位	時間数	30時間	

### 【学習目的】

論理的思考力を育成し、また、論理的な表現能力を身に付ける。

### 【学習目標】

本授業では、文体と書き言葉、文章の構成、段落内の構成、引用の仕方、意見の述べ方など、論理的文章の作成に必要な基本的技能を身に付けることを目指す。

1. 客観的な表現を身に付ける
2. 結束性のある段落が書けるようになる
3. 文章が論理的に構成できるようになる

### 【学習内容】

1. オリエンテーション
2. 書き言葉
3. 伝わる文を書く
4. 一文一義
5. 説明文
6. レポート準備①レポートとは
7. レポート準備②レポートの構成
8. レポート準備②アウトライン
9. レポート準備③序論
10. レポート準備④本論
11. レポート準備⑤本論
12. レポート準備⑥結論
13. レポート提出前チェック
14. レポート講評
15. まとめ

### 【使用テキスト】

プリント配布

### 【評価方法】

レポート、平常点

**備考：** 講義は、配布資料を基に行う。  
配布資料をとじるためのファイルと課題作文を保存するためのUSBを用意すること。

授業科目	物理学	講師名	遠山 満	所属	医学部
開講時期	1年次前期	単位数	1単位	時間数	15時間

### 【学習目的】

物理学は基礎科学の重要な柱の一つとして、自然現象の解明に大きな役割を果たしてきた。複雑な生命現象も高度に発達した医療機器の基本原理も、物理学をはじめとする基礎科学の諸法則に支配されている。

これを踏まえ、物理的現象に対する基礎的理論をもとに、日常生活に密着した物理学的原理・原則を理解し、医療や看護に用いられる原理・原則を考える基礎を身につけることを目的とする。

### 【学習目標】

1. 物体の運動や物体に作用する力、力学的エネルギーなど、力学に関する基本的な考え方の習得をし、看護技術の根拠やボディメカニクスなどを理解する。
2. 電磁気学や波動に関する基本的な考え方を習得し、看護に必要な知識や医療現場で用いられる機器の作動原理などを理解する。

### 【学習内容】

物理学の基礎、日常生活に見られる物理的な原理・原則、臨床看護技術を軸にした看護に活用される物理の説明や問題演習を行う。

以下に掲げる項目について学習を進める。

- 力の合成や作用、移動介助に役立つトルクなどを扱う力学
- 血流や血液比重測定などに関わる流体
- 胃洗浄に応用されるサイホンの原理や血圧などを扱う圧力
- 感電に関する基礎等を含む電気学
- 超音波診断の原理などに関わる熱と音・波動に関する現象
- 光学機器に関わる光に関する現象
- 医療現場で用いられる放射線の防護と応用

### 【使用テキスト】

「基礎科目 物理学」 平田雅子著 メヂカルフレンド社

### 【評価方法】

講義中に行う問題演習、出欠状況 および 終講試験にもとづき評価を行う。

授業科目	健康とスポーツ	講師名	橋本有子・平澤 愛		所属	保健学部
開講時期	1年次 前期	単位数	1単位	時間数	30時間	
<p><b>学習の目的と主題】</b>  スポーツを通して健康を維持増進するための体力づくりの科学的基礎を理解するために、講義と実際に身体を動かすボディワーク演習を交互に行いながら、健康と体力を高める理論的基礎と実践力を身につける。知識の獲得にとどまらず、身体の効率的な動かし方、効果的な動作の取得などの実践的な運動スキルを高めるとともに、個人のメンタルコントロールや対人コミュニケーションなどの社会的スキルの向上をめざす。  授業は2グループに分けて教室及び体育館で2名の担当教員が同時進行しながら実施する。</p> <p><b>【学習内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の概要とイントロダクション</li> <li>2. 現代社会の健康づくりの現状とスポーツ・健康</li> <li>3. 人体の構造と身体活動 (1)</li> <li>4. 人体の構造と身体活動 (2)</li> <li>5. 筋収縮の様式とスポーツトレーニング (1)</li> <li>6. 筋収縮の様式とスポーツトレーニング (2)</li> <li>7. 生活習慣病と身体活動 (1)</li> <li>8. 生活習慣病と身体活動 (2)</li> <li>9. 食生活とスポーツ (1)</li> <li>10. 食生活とスポーツ (2)</li> <li>11. スポーツ障害の基礎知識 (1)</li> <li>12. スポーツ障害の基礎知識 (2)</li> <li>13. スポーツとメンタルヘルス (1)</li> <li>14. スポーツとメンタルヘルス (2)</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b>  使用しない</p> <p><b>【評価方法】</b>  授業への参加態度と小レポート (50%)、スポーツ科学の理解度 (試験) (50%)</p> <p><b>【備考】</b>  授業は、教室および松田記念館 (体育館) にて行います。体育館の授業では屋内用運動シューズと運動ができる服装で参加すること</p>						
<p><b>【備考】</b>  授業は、松田記念館 (体育館)、およびテニスコートにて行います  運動ができる服装で参加し、テニスシューズおよび屋内用運動シューズを準備しておくこと</p>						

授業科目	英語ⅠA	講師名	岩崎 加奈絵	所属	
開講時期	1年次 前期	単位数	1単位	時間数	30時間
<p><b>【学習目的】</b>  看護・医療従事者に求められる基本的な英語知識の定着を目指す。  「健康」に関するさまざまなトピックで構成されたテキストを用いて、英語を「読む（＋聴く）」力を伸ばすことを目的とし、①基本的な文法・読解、②医学関連の基本単語、の2つを重視する。  また、コミュニケーションの基礎となる力を養うため、アウトプットの練習も出来る限り行いたい。</p> <p><b>【学習目標】</b>  ① 看護・医療領域で使用されるうち、基本的な単語および表現を習得する  ② 基本的な文法事項（高校までに既習の内容）を確認する  ③ 英語聞き取り能力を養うため、定期的に「英語音声」を聴く機会を確保する  ④ 英文によるコミュニケーションに繋がるよう、短い英作文に慣れる</p> <p><b>【学習内容】</b>  授業は講義形式で、下記テキストに沿って行う。事前にある程度目を通してきてもらい、適宜ワークシートなどを利用して内容を確認していく形で進める。意欲的に予習してもらいたい。  また、授業冒頭では単語の小テスト（10問程度）を行うので、特にその予習を、忘れず十分に行うことが望ましい。</p> <p><b>【使用テキスト】</b>  石川英司、佐野潤一郎、大東麻里、田嶋倫雄、C. S. Langham (2014)  『今を生きるこころとからだ』A Healthy Mind, A Healthy thy Body 朝日出版社</p> <p><b>【成績評価】</b>  授業時に行う単語チェックおよびワークシート課題の内容 約30%  学期末試験の得点 約70%</p>					

授業科目	英語 IB	講師名	浜田 啓志		所属	
開講時期	1年次 前期	単位数	1単位	時間数	30時間	
<p><b>【学習目的】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 聞くことを中心とした実践的な英語の能力を高める。</li> <li>2. 聴き取りで身につけた知識を口頭または書き言葉でアウトプットする能力を高める。</li> </ol> <p><b>【学習目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英語の文法や語彙に関する知識は、それが実際に用いられている場面に触れることによってより効果的に身につけることが出来る。この授業では、映画の視聴を通じて語彙やフレーズ、文法パターンの知識を身につけていく。基本的に、授業は聴き取りを中心とした実践的な内容となる。受講者には、日常的に英語を使用していくことが上達への近道であるという意識のもとで、授業に取り組むことを期待する。</li> </ul> <p><b>【学習内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的に、それぞれの授業は以下の流れでおこなう。 <ol style="list-style-type: none"> <li>I. 映画の視聴</li> <li>II. 聞き取りの実践</li> <li>III. 内容理解タスク・及びスピーキング、ライティングの実践</li> </ol> </li> <li>・ 原則2回に1度、小テストを行う</li> </ul> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科書は使用しない。プリントとスライドを主に使用する。</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小テスト (50%)、 学期末試験 (50%)</li> </ul>						
備考：						

授業科目	英語ⅡA	講師名	浜田 啓志		所属	
開講時期	1年次 後期	単位数	1単位	時間数	30時間	
<p><b>【学習目的】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 聞くことを中心とした実践的な英語の能力を高める。</li> <li>2. 聴き取りで身につけた知識を口頭または書き言葉でアウトプットする能力を高める。</li> </ol> <p><b>【学習目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英語の文法や語彙に関する知識は、それが実際に用いられている場面に触れることによってより効果的に身につけることが出来る。この授業では、映画の視聴を通じて語彙やフレーズ、文法パターンの知識を身につけていく。基本的に、授業は聴き取りを中心とした実践的な内容となる。受講者には、日常的に英語を使用していくことが上達への近道であるという意識のもとで、授業に取り組むことを期待する。</li> </ul> <p><b>【学習内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的に、それぞれの授業は以下の流れでおこなう。 <ol style="list-style-type: none"> <li>I. 映画の視聴</li> <li>II. 聞き取りの実践</li> <li>III. 内容理解タスク・及びスピーキング、ライティングの実践</li> </ol> </li> <li>・ 原則2回に1度、小テストを行う</li> </ul> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科書は使用しない。プリントとスライドを主に使用する。</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小テスト(50%)、 学期末試験(50%)</li> </ul>						
備考：						

授業科目	英語 IIB	講師名	岩崎 加奈絵	所属	
開講時期	1年次 後期	単位数	1単位	時間数	30時間

#### 【学習目的】

看護・医療従事者に求められる基本的な英語知識の定着を目指す。

「健康」に関するさまざまなトピックで構成されたテキストを用いて、英語を「読む（＋聴く）」力を伸ばすことを目的とし、①基本的な文法・読解、②医学関連の基本単語、の2つを重視する。

また、コミュニケーションの基礎となる力を養うため、アウトプットの練習も出来る限り行いたい。

#### 【学習目標】

- ① 看護・医療領域で使用されるうち、基本的な単語および表現を習得する
- ② 基本的な文法事項（高校までに既習の内容）を確認する
- ③ 英語聞き取り能力を養うため、定期的に「英語音声」を聴く機会を確保する
- ④ 英文によるコミュニケーションに繋がるよう、短い英作文に慣れる

#### 【学習内容】

授業は講義形式で、下記テキストに沿って行う。事前にある程度目を通してきてもらい、適宜ワークシートなどを利用して内容を確認していく形で進める。意欲的に予習してもらいたい。

また、授業冒頭では単語の小テスト（10問程度）を行うので、特にその予習を、忘れず十分に行うことが望ましい。

#### 【使用テキスト】

石川英司、佐野潤一郎、大東麻里、田嶋倫雄、C. S. Langham (2014)

『今を生きるこことからだ』A Healthy Mind, A Healthy thy Body 朝日出版社

#### 【成績評価】

授業時に行う単語チェックおよびワークシート課題の内容 約 30%

学期末試験の得点 約 70%

備考：

授業科目	統計学	講師名	高原 哲士	所属	医学部
開講時期	2年次 後期	単位数	1単位	時間数	15時間
<p><b>【学習の目標と主題】</b>  統計学は、生活習慣と疾病の罹患率との相関や、臨床試験における新薬の薬効の有無などを定量的に評価するにあたって、医療の現場でも多く用いられている。  本講義では、統計学の基本的知識とデータ解析のための基礎技術の習得を目標とし、疫学や治験などで用いられる統計学的手法の基礎を学習することを主題とする。</p> <p><b>【学習内容】</b>  統計学の基礎、とりわけ母数の推定や検定を軸とした看護に活用される統計学的手法の説明や問題演習を行う。  以下に掲げる項目について学習を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 標本抽出とデータ解析</li> <li>● 分布の代表値と散布度</li> <li>● 正規分布と平均値の区間推定</li> <li>● 母平均の差の検定</li> <li>● 母比率の差の検定</li> <li>● 回帰直線と相関係数</li> <li>● クロス集計表と独立性の検定</li> </ul> <p><b>【使用テキスト】</b>  「ナースのための統計学」第2版 高木廣文著（医学書院）</p> <p><b>【参考書】</b>  「よくわかる医療・看護のための統計入門」第2版 石村貞夫、桃井保子、今福恵子、劉晨著（東京図書）</p> <p><b>【評価方法】</b>  講義中に行う問題演習、出欠状況 および 筆記試験にもとづき評価を行う。</p>					
備考					

授業科目	情報科学	講師名	遠山満 大谷宗久 高原哲士		所属	医学部
開講時期	2年次後期	単位数	1単位	時間数	30時間	
<p><b>【学習の目標と主題】</b>  近年、一般社会においてコンピュータや情報処理端末が幅広く導入されてきており、医療の現場においても、情報処理技術の習得は不可欠となってきている。  本講義では、パソコンを用いた文書作成や作図をはじめとして、統計処理のさまざまな手法、プレゼンテーションファイルの作成など、基礎的な情報処理技術と統計学的手法を学習し、卒業研究で求められる情報処理技術の習得を目標として、演習形式で講義を行う。</p> <p><b>【学習内容】</b>  パソコンの基本操作や文書作成ソフトや表計算ソフトを活用した文書作成・作図、統計学的仮説検定などを演習形式で行う。  以下に掲げる項目について学習を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● パソコンの基本操作、文字入力や表の作成</li> <li>● 表計算ソフトによるデータ入力とデータ処理</li> <li>● グラフ作成と基本統計量</li> <li>● 統計学的仮説検定</li> <li>● アンケート集計とプレゼンテーションファイルの作成</li> <li>● プレゼンテーションの実践</li> </ul> <p><b>【使用テキスト】</b>  ・初回時配布するテキスト  ・「よくわかる医療・看護のための統計入門」第2版 石村貞夫、桃井保子、今福恵子、劉晨著  (東京図書)</p> <p><b>【評価方法】</b>  出欠状況 および 提出物にもとづき評価を行う。</p>						
<p><b>【備考】</b>  看護・医学教育研究棟1階パソコン室で授業を行う。パソコン室の端末にログインした経験のあるものは、自分で設定したパスワードを思い出しておくこと。</p>						